



臨床教育人間学

2001年 年報第3号

京都大学大学院教育学研究科 臨床教育学講座

臨床教育人間学 第3号 2001年
京都大学大学院教育学研究科臨床教育学講座

目 次

教育基本法のレトリック（その2）	皇 紀 夫	5
The English Procedure of The Landscape Montage Technique	Akira KAITO	13
アナロジー思考が開く逆説的結合の可能性 ——「考える葦」（『パンセ』）の再解釈に基づいて——	河 野 洋 子	19
創発はいかなる意味で倫理的か	岩 井 哲 雄	45
デューイの学校教育における仕事論についての考察	陳 淑 敏	57
「ソリッドな主観」の形成 ——森有正の「音楽」の語り——	中 桐 万 里 子	73
システム化と相互性の教育人間学的理解	矢 野 智 司	87
John Lippitt “Humour and Irony in Kierkegaard’s Thought” に ついてのノート	山 内 清 郎	97
臨床教育学講座 2000 年度授業科目一覧		113
編集後記		115
『臨床教育人間学』執筆要項		116

編集後記

ようやく年報『臨床教育人間学』第3号の編集を終えることができた。臨床教育学と教育人間学は、どちらも二つのそれまで結びあうことのなかった言葉が結びあってできたハイブリッドな学問だ。そのことは、既成の学問の境界線上に立つということでもある。既成の学問では捉えることのできないテーマを発見しそれを論じること、その面白さと自由さを感じ取れるものにとってこれほどすてきな場所はない。しかし、その議論に力がなければどの学問にも相手にされないものになってしまう。この緊張感はとても得難いものだ。かつて市場は、異邦人との交換のために、共同体と外部との境界線に立てられたという。同じ言語ゲームに属する者同士が自由に語り合うアゴラ（広場）とは異なり、市場では異なる言語ゲームに属する者同士が、語り合うルールもないところから出発する。年報『臨床教育人間学』は、広く外部へと開かれ、危険を怖れず、いかなる他者とも知を交換し合うことのできる活気あふれる「市場」である。この場所で、従来研究者ではない、さまざまな領域を横断することのできるエネルギーのある研究者が育っていくことを願っている。

今回の編集では、大学院博士課程の岩井哲雄君と森田裕之君に手伝ってもらった。この場を借りて感謝したい。

2001年3月31日

矢野智司

臨床教育人間学 第3号

2001年3月31日

発行

京都大学大学院教育学研究科臨床教育学講座

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

Tel 075-753-3036 Fax 075-753-3036

製作 明文舎印刷株式会社

〒601-8316 京都市南区吉祥院池ノ内10

Tel 075-681-2741

